

到るべし。頓て人和村、樂義村、先農壇を経て、偃師に投ず、行程約十里。人和、樂義、先農壇、何ぞ其れ佳名なる。聞くだに平和の歴史を有するものゝ如し。

偃師（鞏縣を距る約我十里）は地勢平坦、周圍土墻を繞らし、更に其の内方に磚製の城壁を築き、長さ約一里に達すと。人戸六百有餘、此地屢々水害あり、人民甚だ富まず。氣候は温和、殆ど結氷なく、飲用水は井水に頼る、通貨は制錢千二百文を一兩と算す、入貨は米、麥、鹽、出貨は綿、豌豆等其の主なるものとす。縣衙門、巡警局、郵便局等あり、學校は小學堂を有するのみ。宗教は回教、大部を占む、此地年々痘病多しと。

二十二日午前八時五分、偃師を背にし、西方に向つて出發。打庄は其の附近に桃多く、人家約百餘戸を有し、次驛の新寨鎮も、其の戸數前者と相伯仲せり。房屋皆瓦にて葺き、稷稗の燈籠を製する者多し。紙庄（ツイチヨワン）の北側を過ぎて、察庄（チャーチヨワン）に到る。人口約二百五十、主に蘿蔔を培ふ。一大宗は人家僅に五十戸、附近産物は綿花及果物類とす。其の西北方約二百米突許の所に、又多くの桃樹を認む。廟庄（ミヤオ）は戸數僅に三十に過ぎざるも、桃、柿、榆、綿花夥しく、義井舖は人家四十戸内外、蓋し偃師より此處に到る間、凹道相踵げるも、兩側高からざるが故に登攀すべく、且つ路外は平坦開濶なる